

コース24 姫神山・岩手山・早池峰山

リーダー CL K/T SL M/T

実施日 平成19年7月27日～29日 天候 27晴 28晴後強風小雨 29晴

参加者 20 (男性 9 女性11)

グレード C上D

コースポイント

ポイント	到着時間	出発時間	備考
27日 区役所前		4:25	磐梯山・菅生・紫波のSA休憩
一本杉登山口	10:25	10:35	車窓よりきれいな山容見える
姫神山山頂	12:25	13:10	岩手山・早池峰山の眺望等素晴らしい
一本杉登山口	14:20	14:35	啄木記念館、「どんと晴れ」一本桜に立ち寄る
28日綱張温泉		4:25	前夜夕食は、バイクング。朝はオニギリ弁当
馬返登山口	4:45	5:00	広々とした駐車場にすでに30台位先着
お鉢の南東端	10:05	10:55	強風に襲われ、しばし停滞後引き返す。
馬返登山口	15:10	15:30	下山は七合目より新道コース
29日川原坊登山口	6:15	6:40	岳民宿「大和坊」よりシャトルバスで
早池峰山頂	10:20	10:50	途中、崖松への遊歩道の入口
小田越登山口	13:00	13:42	を覗く
区役所	21:20		

山行等概要（幹事のコメント）

(27日)

- ・ 姫神山は二百名山で、岩手山展望の山。参加者の多くは、足ならし（程度の山）と思っていたようだが、九合目上の岩場から山頂での大展望に「いい山だ」と感嘆しきり。



29

姫神山山頂

2008年（平成19年）7月27日

(28日)

- ・ 百名山で、東北第一の手強い山 岩手山。登る前から、皆には、良い意味での緊張感があった。時々立止り、振り返っての大展望を楽しみながら、時には樹林も混じる溶岩帯をひたすら登る。1時間、2時間と経つうち、ラストを守るSLと一緒に最後尾につく者も出てきたが、八合目避難小屋で、調整し、そこからは全員揃って、隊列を整え直す。
- ・ その頃から、次第にガスが覆ってきて、強風が変わって来た中、右回りでお鉢の南東端に登りつく。そこからの進退を検討したが「行けるところまで行こう」ということで進んだ。が、風は、いまだかつて経験したことのないほどの強烈さに変わり、それ以上の進行を断念し、リーダーや会幹事の用意してきたロープで一同つながり必死の思いで、協力一致、危機を無事切り抜けることができた。お鉢の南東端は富士山頂と同様、山頂の一角なので、岩手山の登頂を全員果たしたことになる。

(29日)

- ・ 早池峰山は百名山でかつ花の百名山でもある。ガスがかかっていたが、基本的には好天なので、河原坊口からの蛇紋岩の岩場コースを登る。
- ・ 八合目前後から、早池峰薄雪草の群落が沢山現れてきて、一同、興奮気味となってカメラに収める。
- ・ ガスのため山頂からの大展望は得られなかったのが残念だったが、頂上付近のお花畑や、昇り、下りの岩場歩きを堪能することができた。



早池峰 河原坊コース 5合目 頭垢離

「岩手の秀峰を訪ねて」

(1298) K/I

今回の山行は、二泊三日で岩手県・名峰三山（岩手山・早池峰山・姫神山）の登山でした。以前から高山植物の宝庫として知られる「早池峰山」と岩手県の最高峰で百名山の「岩手山」には機会があれば行って見たい山でした。幸い、花の7月に山行計画されたので喜んで参加させていただきました。

7月29日、4時30分新津を出発。参加者は高橋（賢）リーダーを含め20名で、磐越・東北自動車道を6時間かけて、第一日目の「姫神山」一本杉登山口に到着。

梅雨の最中だが、素晴らしい天候に恵まれた。駐車場で準備体操や携行品の点検をして出発、八合目をすぎると眺望が広がり登山道の脇には、コメツツジ、ウスユキソウ、クガイソウなどの花が咲き乱れる。山頂直下からは岩場を越えて12時20分、山頂に到着した。青空の中、展望をさえぎるものもなく、明日挑戦する岩手山や奥羽山脈・北上山脈などの素晴らしい眺望を楽しみながら昼食を取った。今日は、明日の岩手山登山の準備運動で徒歩時間約3時間のウォーミングアップで下山をした。

第二日目は、往復10時間の長丁場の岩手山登山です。4時30分に宿泊地の休暇村岩手網張温泉をマイクロバスで馬返し登山口駐車場に向け出発、バスの中では昨日登った姫神山の素晴らしいご来光を仰ぐことができた。

駐車場には、既に20台ほどのマイカーが止まっていた。登山道入口には、センサーで登山者が近づくと登山カードの提出や登山案内を無人で行っていた。そのスピーカーに送られ登山道に入る。

階段状の登山道を登ると火山礫が現れ、展望が良くなった二合目で朝食タイムを取る。宿からのオニギリ弁当と昨夜のバイキングで頂戴した中華チマキで満腹、オニギリ一個は非常食に残す。

眺望を楽しみながら急登に汗し、火山礫や高山植物帯を登り、ハイマツ帯の緩やかな登山道を進むと、青空と緑のお花畑の前方に八合目の避難小屋と山頂付近の景観が望めた。

全員、無事八合目避難小屋に8時55分到着した。休憩を取り、湧き水で最後の水を補給する。少



岩手山 急斜面を登る

し風が出て山頂が雲に隠れてきたので、リーダーが大事を取り小屋の管理人と打ち合わせをし、山頂を目指し出発した。

九合目から山頂を目指す頃から、風の強さを感じてきたが、岩手山の山頂は休火山で360度、障害物がないためと思っていた。10時15分、山頂到着し記念写真を取りお鉢巡りをするため北方山頂の薬師岳に向かった。その直後、僅か5分程度で、烈風が前から横から無秩序に襲う、

風速50M 以上はあった。全員が進退不能になり砂礫の登山道に身を伏せた。風は尚強く、霧雨が突いてきたので、リーダーの判断で強行下山。ザイルを繋ぎ全員20名を確保しながら外輪の方に飛ばされないよう火口内側を少しずつ下った。11時40分、全員八合目避難小屋に到着した。誰もが身体中に砂粒を浴び顔は引き攣っていたが無事を喜び小屋の湧き水で汚れ落とし携帯品や装備を直した。

お鉢巡りの僅か15分程度の自然の驚異を非常に長く感じた。この間の、リーダーの沈着冷静な判断力と行動には本当に敬服しました。後に知ったのですがリーダーは強風の砂粒で利き目の右目をやられ、片目で全員を馬返登山口に降ろしてくれました。

「山の危険性」を再認識させられた岩手山登頂でした。避けられない自然の猛威ではあったが「山ではこういうことも起こり得るのだ」という意識を頭の片隅に植え付けることができた。今回の山行計画書には、山頂強風時のルート変更やロープ・カナビナの持参、「救援者費用保険」の加入の奨励なども記入された万全な計画書でした。

第三日目（最終日）は、高山植物の宝庫として全国的に知られた花の名山「早池峰山」でした。特に、この時期は「ハヤチネウスユキソウ」「ナンブトラノオ」などの特産種が咲くため各地から多くの登山者が訪れていた。

山麓の早池峰神社の前の民宿「大和坊」からシャトルバスで出発、環境保護のためマイカーの乗り入れが制限されていた。6時20分、登山口河原坊に到着、ここでも汚物処理に携帯トイレの持参を奨励していた。それだけ高山植物に対する自然環境の配慮を地元の人々が気を配っている山でした。

身支度を整えて出発する。コメガモリ沢に沿って蛇紋岩の露岩を登り続ける。途中、天狗が頭をぶつけた、と言ういい伝えのある「打石」付近はコース最大の急傾斜地で落石や滑落に注意しながら全員無事通過する、頂上直下から斜度がゆるくなり、朝露に濡れた高山植物が期待通りに多く見る事ができ、写真を取りながら山頂に10時20分到着した。

山頂は、早池峰神社奥宮と避難小屋があり後方には奇岩が重なった岩の広場があり全方向で展望が見られるはずだが雲に覆われ下界は見えなかった。下山は、小田越コースを下る、山頂直下の「お田植場」の湿原は心に残る素晴らしいお花畑でした。



早池峰薄雪草

連日の歩行で、少々遅れ気味に感じたが全員予定通り13時に小田越に到着し、三日間の山行の全行程を終了することができた。汗まみれの身体を東和インター直前の「東和温泉」で流し一路新津に向かった。私にとっては非常に思い出多い山行でした。

これも偏にリーダー、サブリーダーの綿密な計画と良き指導のお陰と感謝するとともに同行のメンバーにも感謝いたします。